

森林や林業の一連のシステムを体験するツアーを実施

四国森林管理局

森林の機能や木材の重要性を普及させるため、今、大きな課題となっている森林環境教育。そのため、各地域の森林管理局では、さまざまな取組が行われています。独特な視点から森林環境教育を進める四国森林管理局計画部・指導普及課に、おもな活動内容や今後の目標・課題などを伺いました。

国有林の現場から

～森林環境教育の普及を旨として～

未来の林業・木材産業を担う若者を育てるために

一昨年九月、森林・林業基本計画」が改訂されました。四国森林管理局でも百年先を見通した森林づくりと国産材の復活を目指して、地域材の利用拡大や、様々なニーズに応えた森林づくりを進めています。このような取組を、広く国民の皆様理解していただき、支援していただくことが大切です。特に、体験型の森林環境教育などの充実を図り、それらを通じて次世代を担う若者や子どもたちに理解してもらうことが重要だと思えます。

四国森林管理局では、平成十八年度に森林教室や木工クラフト体験、自然観察などの体験型教育を小学校、中学校、高校を合わせて一五七回行ってきました。しかし森林環境教育に対するニーズが多様化している中、従来型の森林教室、体験林業、木工教室、自然観察とメニューが固定され、学校等からのニーズに的確に答えられていないこと、木材利用を目的とした森林環境教育の取組みが少なかつたとの反省から、平成十九年度から従来取組んでいる体験

型教育に加え、国産材や地域材など、木材利用の促進を目的とした森林環境教育にも積極的に取組み始めました。

例えば、大学の建築学科に通っている大学生でも、実際は木材について勉強する機会がなく、働き始めてから体験するか、自分で学ぶしかないというのが現状です。十年後には、人工林の約六割が利用期を迎えます。次世代の林業・木材産業を担う若者たちに、早いうちから木材のよさや木材利用の重要性を学べる機会を提供することを目的としました。

単なる体験ではなく 体感して学ぶ大切さ

今年度から始めた一つ目の取組は、高知県下の嶺北木材協同組合、高知大学(学生)等と連携して行った「建築学科在籍の学生を対象とした森林環境教育」です。実施期間は六泊七日で、木造住宅設計、熱伝導など木材の特性などを学ぶとともに、地域材を利用した木造住宅見学、国有林での間伐体験、木材搬出現場見学などを行いました。これは、国産材や地域材の利用拡大が林業・木材産業を再生させる大きな鍵になるため

です。全国から将来建築士や室内コーディネーターなどを目指す十八名の学生、社会人が参加しましたが、参加した学生でも、のこぎりの使い方すら知らない人がほとんどでした。これらの活動を続けていくことで、今後の木材需要拡大の架け橋になると考えています。この取組は、来年度以降も、木造住宅の建築などを通じて、将来、国産材、地域材利用の推進役、消費者への情報発信役を担うであろう「建築士の卵」を中心に実施していきたいと思っています。

また、高知県立高知農業高等学校での森林環境教育は、林業と木材、治山・林道事業をテーマにした授業をカリキュラムに組んで実施しました。一年生は一日、二年生は半日、三年生は三日間でしたが、林業の現場や木材利用の重要性を感じてもらえるいい機会になったと思います。来年度以降も、学校の授業に組み入れていただく予定です。

さらに、「美しい森林づくり推進国民運動」の一環として行った「住まいの・スマイル探検ツアー」。地域材を利用した木造住宅の建築を希望している一般の方を対象に、森林整備や木材利用システムなどを実



[建築学科の学生への森林環境教育の様子]
 右上 / 木材の特性などについて学習
 左上 / 木材強度試験で説明を受ける学生たち
 左下 / 国有林での間伐現場を見学



[住まいる・スマイル探検ツアーの様子]
 右上 / 多くの家族が見学に訪れました
 右下 / 実際の木造住宅施工現場も見学
 左 / 木材加工工場など見学も実施



実際に体験・体感してもらい、国産材、地域材利用の重要性を理解していただくことが目的でした。間伐や森林教室などで林業の川上の部分を、木材加工工場などの見学で川中の部分を、そして川下である実際の木造住宅を見学し、木材が家となる様を見学していただき、好評を得ました。

森林環境教育は、国有林をフィールドとした体験型学習ももちろんですが、川中、川下の部分を含めて学ぶことが重要だと思います。また、森林環境教育は、「体験」だけではなく、体験を通じて、「体感」してもらうことが重要だと思っています。何かを感じ取り、考えることで、直接、森林づくり活動へ参加したり、生活の中での木材利用など、次の段階に



導くことが必要なのです。四国森林管理局では、教育関係者、森林ボランティアや川中、川下の方々とも連



携・協力をしながら、これから社会で活躍していく人に、「感じ、考える」教育を行っていききたいと思えます。